

英米文化学会会報

第 87 号

平成 23 年 5 月 15 日



コロラドからネブラスカに至る道沿いで、手を広げて西部への道を指し示してくれる樹と出会う。ちょっとユーモラスな姿を、トウエインもジュールスバーグからの駅馬車の車窓で見たかもしれない。あの樹は、いまも元気だろうか。あの道を、いつ、また走れるだろうか。(撮影：佐野 2006 年 8 月)

目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 135 回例会・臨時総会のお知らせ
- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 136 回例会（11 月開催）発表者募集
- ◆ 抄録の書き方 当学会での発表・投稿予定の会員必読
- ◆ 大会担当より 英米文化学会第 29 回大会（9 月開催）のお知らせ
- ◆ 財務担当より 平成 23 年度年会費納入について
- ◆ 事務局より 会報の電子化について・会員消息

◆ 英米文化学会 第 135 回例会・臨時総会のお知らせ

(例会担当理事：田嶋倫雄)

日時：平成 23 年 6 月 11 日(土)午後 3 時 00 分～6 時 00 分

午後 2 時 30 分受付開始予定

場所：日本大学歯学部 4 号館地下一階セミナー室 <地図は 4 ページに掲載>

(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町 他 下車)

懇親会：日大歯学部 3 号館 地下ラウンジ、例会会場の斜向かいの建物の地下

会費：2,000 円 午後 6 時 00 分～8 時 30 分 懇親会のみ参加も歓迎いたします。

開会挨拶

英米文化学会理事長 佐藤 治夫 (日本大学)

(3:00-)

研究発表

1. 原点としての願望の追求と現実的な生き方の対立: 『ファンショウ』を中心に (3:10-3:50)

発表 笠原慎一郎 (昭和女子大学)

司会 君塚淳一 (茨城大学)

2. 「愛国者」とは誰か - トウェインと新渡戸の警鐘 (3:50-4:30)

発表 佐野潤一郎 (創価大学)

司会 大東俊一 (人間総合科学大学)

----- 小休止 (4:30-4:40) -----

3. 『釣魚大全』の文学的統合と英国国教会思想 (4:40-5:20)

発表 曾村充利 (法政大学)

司会 山根正弘 (創価大学)

閉会挨拶

英米文化学会会長

小野 昌 (城西大学)

(5:20-)

例会に続いて臨時総会を開催します

(5:30~5:50)

研究発表抄録

1. 原点としての願望の追求と現実的な生き方の対立: 『ファンショウ』を中心に

発表 笠原慎一郎 (昭和女子大学)

ナサニエル・ホーソーン (Nathaniel Hawthorne, 1804-1864) は、大学を卒業してから3年後に、処女作『ファンショウ』(*Fanshawe*, 1828)を匿名で自費出版した。しかし、すぐに回収し、破棄している。多くの研究者からは失敗作だと考えられ、あまり研究されてはこなかった。今回、『ファンショウ』を改めて読み直し、ホーソーンが心に抱えていた精神的な対立がそこに表れているのではないかと考えた。ホーソーンは、現実の世の中に逆らい、社会から孤立しても、自分の願望を自由に追い求める生き方に魅力を感じていた。そういう生き方が芸術家にとっては必要なのだと考えていた。しかし、その一方で、大きな欲を抱かずに、現実の範囲内で物事を考え、世間とのつながりを大切にしながら、自分の身の丈にあった生き方をすることの方が安全であり、最終的にはその方が幸せになれるとも考えていた。この二つの考え方は、ホーソーンの心のなかで絶えず対立し、『ファンショウ』以降の多くの作品でもこの問題が描かれているように思われる。この対立という観点からホーソーン文学の原点の一つを考察する。

2. 「愛国者」とは誰か - トウェインと新渡戸の警鐘

発表 佐野潤一郎(創価大学)

新渡戸稲造が1925年に「実業之日本」に発表した「真の愛国心」にある「我国には国を愛する人は多くあるが、国を憂う人は甚だ少い。しかしてその国を愛するものも盲目的に愛するものがありはせぬかを虞(おそれ)る」との指摘は、それに先立つ1900年代のアメリカにおける反帝国主義運動で作家マーク・トウェイン(Mark Twain)がとった態度と相似である。トウェインがアメリカにおける愛国心の虚偽性を指弾したのは、当時の「愛国的な」歌の歌詞に見られる判断停止の推奨がいかにも危険かを看破したからである。同様に、新渡戸の愛国心論は、必要な言説を過度に慎むことによって国家の暴走を許すことの非を詰っている。共に国家主義が台頭しつつある時代背景にあって、いずれの立場も、言論自製の危険性を批判している。両者の言説の異同を、それを表現するユーモアの技法を中心に比較する中で、両者の国家と国民に対する認識を捉え直し、共に「愛国」の危うさを愁いながら、日米の文化背景が批判的ユーモアにどのように反映されているかを論じる。

3. 『釣魚大全』の文学的統合と英国国教会思想

発表 曾村充利(法政大学)

熱心な国教会徒アイザック・ウォルトン(Izaak Walton)は、17世紀の内乱の時代に、釣りの指南書『釣魚大全』(*The Compleat Angler*)を執筆し出版している。近代文学の読者の目から見ると、『釣魚大全』の最も大きな特徴はジャンルの混淆である。例えば実用書と文学の両立の妥当性は古くから疑問視されてきた。またパストラルと農耕詩、散文と詩など対立するジャンルが混在し、その他、政治パンフレット、風刺、行儀本など多くの要素を見出すことができる。ウォルトンは、1つの文学ジャンルによる作品全体の支配と統制を拒否し、いくつものジャンルを混在させたままにしている。文学批評の領域ではこの混淆は分裂の可能性を意味し、大きな課題であったが、『釣魚大全』は、必ずしも読者に分裂した印象を与えていないのである。本発表では、異なるジャンル同士の衝突を回避し、共存と統合を最終的に可能にしているものが、ウォルトンの寛容な国教会思想であることを論じる。

◆英米文化学会第136回例会(11月開催)発表者募集

(例会担当理事: 田嶋倫雄)

上記の例会(11月12日)の発表者を募集いたします。発表時間は30分もしくは40分です。発表の希望者は、氏名と所属(勤務先)、研究発表題名と抄録をメールで、以下のメールアドレスにお送り下さい。

締切日は9月12日、例会会場は日本大学歯学部(御茶ノ水)の予定です。

発表申し込み先: 例会担当田嶋倫雄 MichioTajima(at)SES-online.jp です。

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただきます。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

◆抄録の書き方

当学会での発表・投稿予定の会員必読

1) 抄録の目的

英米文化学会では、例会での研究発表の抄録を学術研究上重要なものと位置づけており、研究発表そのものの評価を左右するものと考えている。抄録は、研究発表内容が容易に理解できるように作成する。また発表の場に不幸にして出席できなかった、他の研究者にも研究発表の内容(論理展開と結論)について、容易に類推できるような書き方を採用しなければならない。また、発表時の発表資料の先頭部分には、最終的に受け付けられた、抄録を掲載するものとする。

抄録は発表者が行った研究の内容を表すものであるから、前書き、引用、統計処理への直接の言及、図表の提示などは避け、研究の直接の目的、方法、考察、結論が容易に理解できる文体を採るものとする。特に結論部分に「したい」とか「試みる」のような、実際に発表で行ったかどうか、後で抄録を読む他の研究者が判断できないような書き方は避ける。結論部分は、「論じる」「考察する」「紹介する」「評価する」などの実際に発表の場での発言内容を示す言葉で結ぶ。

2) 抄録の書式

抄録は、以下の書式の条件を満たしているものとする。

イ：タイトル

a) 和文タイトル タイトルに書籍名がはいる場合は、特殊な場合を除き出版年などの書誌データを入れない。

b) 英文タイトル

ロ：氏名 共同研究成果の発表では、実際の発表者を筆頭にする。代表者の口頭発表で、ここに記入されている全員に、口頭発表のクレジットが付与されるので、筆頭者のみが口頭発表すればよいものとする。発表者が発表途中で、ここに記入された研究者と交代することは許容される。

ハ：所属 発表者が複数に渡る場合は、全員の所属を提出するものとする。

ニ：抄録の本文 本文の字数は、和文抄録の場合は全角文字 350 字以上 400 字以内とし、英文抄録の場合は 200 語以内とする。

3) 抄録の用語

イ：直接の研究対象に関する、日本国外の人名・地名は、初出時に括弧つきで原語表記を付けるものとする。

ロ：専門用語を外国語で直接表記する場合は、カタカナを付ける。またその専門用語に日本語訳があれば必ず付ける。抄録では専門用語についての解説・説明は行わない。

4) 提出

抄録の提出には、上記事項をもれなく記載して、担当理事宛てに、電子メールの本文に添付して送信する。

5) 書直しの要求

担当理事は、抄録の書体統一ならびに上記の観点から、発表申込みに当り抄録の書直しを要求することがある。

* 例会会場（日本大学歯学部4号館地下） / 懇親会会場（3号館地下）



JR・地下鉄： JR 中央線・総武線 御茶ノ水駅
 都営地下鉄 新宿線 小川町駅 営団地下鉄 千代田線 新御茶ノ水駅
 営団地下鉄 丸ノ内線 御茶ノ水駅 営団地下鉄 丸ノ内線 淡路町駅

◆英米文化学会第 29 回大会（9 月開催）のお知らせ

（大会担当理事：松谷明美）

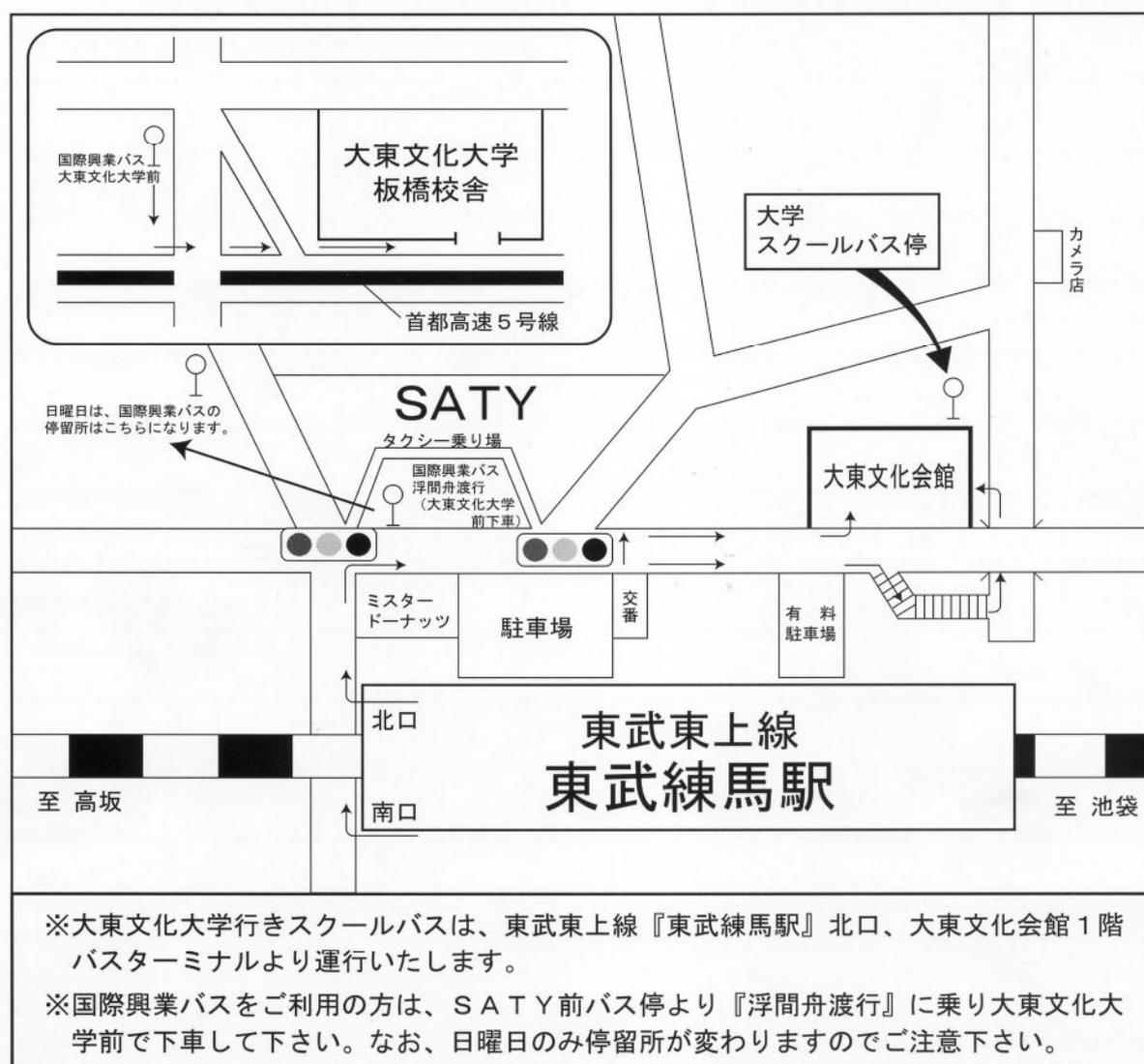
日時： 平成 23 年 9 月 10 日（土） 午前 10 時 00 分 ～

場所： （予定） 大東文化会館 K-0101 ホール

（変更がある場合は次回会報にてお知らせ致します）

問い合わせ先： 大会担当理事 松谷明美 AkemiMatsuya(at)ses-online.jp

大東文化会館周辺図



<受付>

9:30 -

<会長挨拶>

10:00 - 10:10

会長 小野昌（城西大学）

<研究発表第1部> 10:10 - 12:10

1. 米国グラフィック・ノヴェルにおける女性自伝文学の潮流

中垣恒太郎 (大東文化大学)

2. 芸術体験の構成契機としての美的環境

—オスカー・ワイルドの “Lecture to Art Students” の美学的考察—

土屋裕美 (慶應義塾大学大学院)

3. 書物史の要素から考察する The History of St. Paul's Cathedral in London (1658) の同時代的意義

高野美千代 (山梨県立大学)

<研究発表第2部> 13:30 - 16:20

4. War Hysteria—西海岸における日系人強制収容のもう一つの理由—

中畑義明 (国立久留米高専)

5. Queequeg and the Final Design of *Moby-Dick*

Steve Redford (静岡大学)

休憩 14:50 - 15:00

6. 『籠の中の鳥』に込められたピューリタンへの挑戦

石原万里 (福島工業高等専門学校)

7. サイクル劇としての《隅田川》

—「カーリユール・リヴァー」から読み直す—

式町真紀子 (法政大学)

<懇親会> 17:00 -

◆財務担当より 平成 23 年度年会費の納入について (財務担当理事:山根正弘)

平成 23 年度年会費の納入をお願い申し上げます。同封の郵便振替用紙をご利用ください。
すでに納入された方はご容赦下さい。便宜上、全会員にお送りしております。
なお、平成 22 年度以前に未納がある場合も、この機会にお願いします。
納入状況は、山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp に問い合わせ下さい。

年会費 : 5, 000円
口座番号 : 00160-7-611777
加入者名 : 英米文化学会

◆事務局より 会報の電子化について・会員消息 (事務局担当理事:大東俊一)

*会報の電子化について

これまで印刷した会報を皆様のお手元に郵送してまいりましたが、平成 24 年度より紙媒体によるお届けを廃止し、現在、ホームページで公開しております電子媒体の会報に一本化する方向で検討を進めております。従来の紙媒体では単色刷りとなっておりますが、電子媒体ではフル・カラーでご覧いただけます。

会報の電子化につきましては、次号以降の会報において検討状況を順次お知らせ致しますので、情報にご注意ください。

*会員消息

省略

英米文化学会会報 第 87 号 編集/発行: 英米文化学会 編集責任者: 佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内

Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先: 郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>